

⑯日本国特許庁
公開特許公報

①特許出願公開
昭53-23137

⑤Int. Cl².
E 06 B 3/20
E 06 B 1/26

識別記号

⑥日本分類
89(2) A 211
89(2) A 11

庁内整理番号
6922-22
6922-22

⑦公開 昭和53年(1978)3月3日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全3頁)

⑧枠体

⑨特 願 昭51-98064
⑩出 願 昭51(1976)8月14日
⑪發明者 浜下郁夫

門真市大字門真1048番地 松下
電工株式会社内

⑫出願人 松下電工株式会社
門真市大字門真1048番地
⑬代理人 弁理士 石田長七

明細書

1. 発明の名称

枠体

2. 特許請求の範囲

左、右堅枠部に相対向して横枠部分片が突設された左、右枠半体を各々合成木材にて一体に形成し、横枠部分片を互いに直接又は単位長さの1又は2以上の複材にて接合して成る枠体。

3. 発明の詳細な説明

本発明は左、右堅枠部(1), (2)に相対向して横枠部分片(3), (4)が突設された左、右枠半体(5), (6)を各々合成木材にて一体に形成し、横枠部分片(3), (4)を互いに直接又は単位長さの1又は2以上の複材にて接合して成る枠体に係り、その目的とするところは枠組みが容易でありまた開口サイズが異なる場合でも部品を共用化して簡単に組立て得る枠体を提供するにある。

従来の枠体は天然木材、集成木材、合板等にて形成された堅枠と横枠を接合して組立てられて

たので、枠部材の四隅の接合が煩雑となると共に直角精度が低い上に四隅接合部の切欠、中棟などの中間接合部の接合用切欠、兼番取付用の切欠等を各部材毎に施さなければならぬために加工箇所が多くなり、しかも開口のサイズ毎に専用の長さの部材を用意しなければならない欠点があつた。

本発明はかかる従来の欠点を解消せんとするもので、以下添付図により詳述する。左枠半体(5)及び右枠半体(6)はいずれも低発泡ウレタン樹脂、低発泡A B S樹脂、低発泡ポリ塩化ビニル樹脂等の低発泡合成樹脂にて一体に成形されたもので、第1図のよう各々左、右堅枠部(1), (2)の上下端及び必要に応じて中間部に横枠部分片(3), (4)が一定長さに措えて一体に突設され、また必要なときは左、右堅枠部(1), (2)の一方又は双方に成形時に第2図のような兼番取付用凹所(8)を同時に凹設してある。また複材(7)は上記と同様の低発泡合成樹脂にて単位長さに成形されている。上記横枠部分片(3), (4)の先端には第3図(9)乃至(10)の如く互いに

嵌合し得るジョイント部(9)，凹が設けられ、また横材(7)の両端にこのジョイント部(9)，凹に各々嵌合し得るジョイント部凹，凸が設けられる。

本発明にあつては第4図(a)は横材(7)を用いずに横枠部分片(3)，(4)を直接連結した例を示すもので、横枠部分片(3)，(4)の各々の長さをいま一尺とすれば開口が二尺の枠体ができる。また第4図(b)は横枠部分片(3)，(4)間を1本の横材(7)で連結した例を示すもので、横材(7)の長さを一尺とすれば三尺の枠体ができる。また同様に同図(c)の如く2本の横材(7)，(7)を挿入すれば四尺の開口の枠体を得られる。更に扉を設ける場合には左，右堅枠部(1)，(2)の一方又は双方の兼番取付用凹所(8)に兼番の一片を取り付け他片を扉裏面に取付けて片開き又は両開きにすることができる。また扉を枠体内に嵌合する場合は兼番取付用凹所(8)を左，右堅枠部(1)，(2)の相対向する内側面の一方又は双方に凹設してもよい。尚、図示実施例は収納壁前枠を示すもので、上部に扉を取付け、下部に引出しを取付けるようとしたものである。

本発明にあつては左，右堅枠部に相対向して横枠部分片が突設された左，右枠半体を各々合成木材にて一体に形成してあるから、煩雑な四隅の接合が不要となり、四隅接合用の切欠の加工が不要となつて組立てが簡単に行なえると共に成形時に直角精度が正確に出せるために、従来枠組み時に行なつていた煩雑かつ熟練を要した直角出しが不要となり、四隅の直角精度の高い枠体を効なく簡単に得ることができるものである。また左，右枠半体は一体に形成されているからその成形時に兼番取付用凹所を同時に施しておけると共に上下枠のみならず中棟部も一体に成形しておけるので、従来別途に施していく兼番取付用凹所、中棟取付用切欠等の加工も不要となり、加工性、組立性が一層良好となるものである。しかも左，右枠半体の横枠部分片を直設或いは1又は2以上の単位長さの横材にて間接的に接合することにより、設置場所の状況に応じて任意の開口の枠体を得ることができ、また複数種の開口サイズ枠体であつても共通した各部材を用いることができるもので、コス

ト面、部材の管理保管面からも好ましいものである。

4 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の分解斜視図、第2図は同上の他の実施例の一部省略斜視図、第3図(a)乃至(c)は同上の接合部を示す一部省略拡大分解斜視図、第4図は同上の作用説明図であつて、(1)は左堅枠部、(2)は右堅枠部、(3)と(4)は横枠部分片、(5)は左枠半体、(6)は右枠半体、(7)は横材を示す。

代理人 弁理士 石田長七

